



医療法人双樹会
よしき往診クリニック院長
守上佳樹
もりかみ・よしき ●2002年、広島大学学校教育学部卒業。08年、金沢医科大学卒業。京都大学医学部附属病院老年内科、三菱京都病院総合内科等を経て、17年、医療法人双樹会よしき往診クリニック開業。京都府医師会地域ケア委員会委員。一般社団法人KISA2隊OYAKATA。京都市学校医会常任理事。京都府西京区警察医。

数的が増えていっています。このつながりがきっかけで患者さんの紹介逆紹介をはじめ、診療所の仕事につながったこともあり。医師会活動は、社会貢献しながら地域医療はもちろん、コミュニケーションやリーダーシップについての勉強もできるといって、自分の

公益社団法人日本医師会会長
松本吉郎
まつもと・きちろう ●1980年、浜松医科大学医学部卒業。88年、埼玉県大宮市(現・さいたま市)に松本皮膚科形成外科医院を開設。96年、大宮医師会理事。その後、埼玉県医師会理事・常任理事、大宮医師会会長、日本医師会常任理事を経て、2022年6月より現職



**医師、経営者、人として
医師会は自分を鍛える場**

守上 本日は松本会長に医師会の存在意義や果たすべき役割、開業医が参画することの意義や期待などについて、若手の開業医の立場からお話をお伺いしていきたいと

思います。

実は私も37歳で開業し、医師会活動に参画するまで医師会についてはよくわかっていませんでした。ただ、積極的に係るようになると、まず学校医や警察医、要介護認定、健康診断、土日夜間の初期救急対応など「地域医療はこのようにして成り立っているのか」という地域全体の医療の仕組みがわかるようになりました。目から鱗が落ちるような経験でした。

松本 地域医療は自分1人で成り立つものではありません。医師を含めた多くの医療従事者がさまざまな仕事をカバーすることで成り立っています。このことを肌身で知るとともに、地域の医師や関係者との顔が見える関係をつくることができます――。

私は34歳で開業し、当初は自院の経営を軌道に乗せるのに必死でした。ただ、ある程度、経営が安定するようになったころから大宮医師会の仕事に積極的にかかわる

ようになり、41歳で役員に登用していただきました。

開業医が自院での診療や経営以外の医療とのかかわりとしては、各種学会での臨床研究という道もありますが、私はどちらかというと地域医療全体のことを考える仕事がしたいと考え、本格的に医師会活動に取り組んでいきました。市や県の担当理事として、看護師の育成をはじめ、医療安全、予防接種、健診、学校医、保健所

関係、さらには総務、経理、介護、産業保健など、さまざまな仕事をさせてもらいました。こうした仕事をやるなかで、多くの先生方との付き合いも増えました。当初、私は大宮医師会の理事のなかでも飛びぬけて若かったこともあり、先輩方からは随分と可愛がっていただきました。振り返ってみると

当時は、大先輩に対して、生意気なことを言ったりもしていました。が、幸いなことに、「出る杭」を育てていこうという寛容な雰囲気がありました。本当に私は「先輩方を含めて人に恵まれた」と思っています。

医師会活動を通じて多くの先生方と交流するなかで、地域との向き合い方や人との付き合い方、説

るようになりました。

そもそも医師会活動の課題の1つとして、病院の指導医クラスの先生方に参加してもらうことがありません。指導医クラスの先生方の理解を得られれば、自ずと若い先生にも医師会の存在意義等は広まっていくと思います。そのため、医師会の活動を広報していくうえでは、病院勤務医を巻き込むような活動も重要なポイントの1つだと考えています。もちろん、病院勤務医と開業医の相互理解が進めば、患者さんの紹介逆紹介といった連携もスムーズに進むようになるはず。

守上 西京医師会でも約3年前から病院勤務の若い医師も入れた勉強会を始めました。実際に顔を合わせることで、互いの課題や思い等も理解し合えるようになりますね。やはりこの関係性が地域連携の強化にもつながり、松本先生が言われたように普段の仕事も楽になりました。

守上 松本会長は若い医師へのアドバイスとして、自らを高めていくためにやっていただいた方がいいと

**地域医療の原点は
人と人との付き合い**

守上 確かに医師会活動、すなわち地域活動ですからね。地域の多くの人と一緒に仕事をし、信頼関係やつながりをつくれることは、ブランディングを含めて、本心にプライスレスの価値だと実感しています。

得力のある話し方、リーダーシップのあり方などを学んでいくことができました。私にとって医師会は、医師として、経営者として、そして人としての自分を鍛える場でもありました。こうした人との出会いやつながりは、何物にも代えることができないものだと思っています。

**信頼できる仲間が見つかり
地域連携もスムーズに進む**

守上 私は現在、京都市西京区の西京医師会の理事として活動していますが、入会前は「おつかない先生がいるのではないか」というイメージを持っていました。ところが実際に入ってみると先生方がとても優しく驚きました。

たとえば、委員会や理事会でも「診療が終わらず、すみませんが本日は遅れます」と素直に言え、それで関係が悪くなるようなこともありません。診療後に「今日、ちよつとどう？」と飲みを誘っていただくこともあり、今は先輩方にいろんなことを教わっているところです。

松本会長が言われたとおり、医師会活動に参加することで、地域医療にかかわる知り合いは指数関

思う活動がありますか。

松本 若い先生たちには積極的に外に出ていってほしいですね。そして、地域医療にかかわるさまざまな立場の人と交流し、自院の繁栄だけではなく、地域全体のことを考えてもらいたいです。そもそも地域の繁栄なくして診療所の繁栄はありません。

私はこれまで医師会活動を30年以上続けてきましたが、つくづく思うのは医療の原点とは人と人との付き合いだということです。学校医や産業医、警察医、かかりつけ医などを通じた地域での評判を含め、こうした活動はすべて自院の経営に返ってくるものです。私は医師会活動に参加することは、医師として地域で生きていくための重要な戦略になるのではないかと思います。

守上 確かに医師会活動、すなわち地域活動ですからね。地域の多くの人と一緒に仕事をし、信頼関係やつながりをつくれることは、ブランディングを含めて、本心にプライスレスの価値だと実感しています。

松本 地域医療は1人の開業医、もつとと言うと医療者だけで成り立つものではなく、多くの人たちと

続きは、本誌2月号をご覧ください